

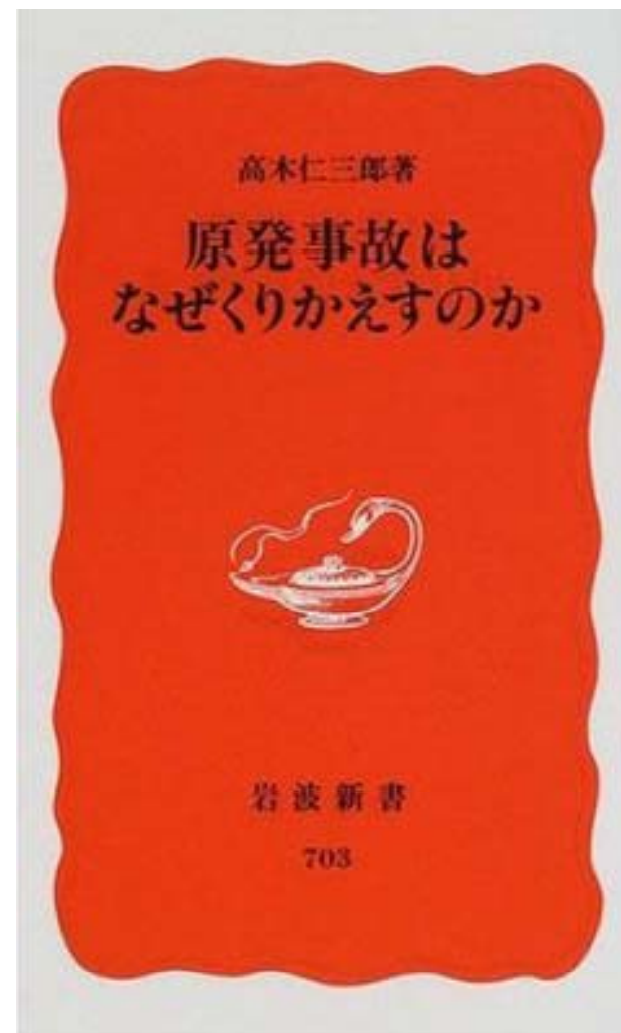
アクティブ・ラーニングの 実践例紹介

西山雄二

(都市教養学部人文・社会系准教授)

2011年度担当授業

- 基礎ゼミナール
「岩波新書を読む」
- 全学の一年生向けの必修演習。履修者は人文社会系が多数。
- 毎回2名が各自岩波新書1冊について発表、討論。
文系・理系、学術的なもの・ジャーナリスティックなもの。



2011年度担当授業

- 演習 「レヴィナス『倫理と無限』を読む」
- 学部・大学院生共通の専門的演習。20世紀の哲学者レヴィナスの拙訳書の読解。



ちくま学芸文庫

発表とコメントの活用による ワーク・イン・プログレスの重視

- 試験とレポートはなし。授業への参加のみで評価（出席＋発表＋コメント・メール）。
- 2/3の出席＋コメントで単位取得可。
- 提出されたすべてのコメントは、次週全員に配布され、意見がフィードバックされる。教師のコメントも掲載。
- 話し言葉と書き言葉によって、教師と学生のあいだに重層的な対話を共鳴させること。

レポート課題の弊害

- 「帳尻合わせ」→全15回の演習のうち、ある部分だけを要領よくまとめるだけでは？
- 教師からの反応がない。→返却義務のないレポート答案を教師はどの程度読んでいるのか？
- 書いたものを通じて、学生が互いに学ぶ機会がない。→学生の文章から学ぶことは多い。
- 教師はただ話すだけで、文章を書くという手本を示さなくてよいのか。

演習授業におけるイベントの活用

- 4/13 ガイダンス
- 4/20 「レヴィナスとは誰か？」 4/27 第1章
5/11 雑誌「世界」2011年5月号「特集＝東日本大震災・原発災害」を読む
5/18 第2章 5/25 第3章
6/1 院生による研究発表「オルフェウスについて」
6/8 第4章 6/15 第5章 6/22 第6-7章
6/29 第8-9章 7/6 第10章
7/13 公開セミナー「レヴィナス『倫理と無限』を読む」
講演者：馬場智一（東京外国語大学）
7/20 まとめ

イベント(出来事)とは何か？

- 一回性 ≠ 継続性
- ゲスト講師と不特定の参加者(他大学学生、市民)
≠ 同じ参加者
 - 入門的 ≠ 専門的
- 企画・準備・運営の工夫
(ポスター作成・掲示、ネットによる情報宣伝、生協書籍部での告知、教室準備・・・)
≠ 習慣的な反復



イベント(出来事)とは何か？

→いかにして新しい何かを出来させるのか？

- 一回性 ≠ 継続性
- ゲスト講師と不特定の参加者(他大学学生、市民)
≠ 同じ参加者
- 入門的 ≠ 専門的
- 企画・準備・運営の工夫
(ポスター作成・掲示、ネットによる情報宣伝、生協書籍部での告知、教室準備・・・)
≠ 習慣的な反復

→ライブ性、緊張感
→雑多で多様な交流
異質な他者との交流
の機会をつくり出すこと
は教育の一部
→学びの円環的時間
→場づくりの実践
制度(変革)への自覚



社会人育成としての人文学の教育

- 演習クラス＝**ひとつのチーム**。1学期を通じて全員共同で何かを成し遂げること。
- **機会を平等に与えると同時に、適材適所の役割配置。**院生から学部生まで、専攻ごとの学生によって、各人の長所短所は異なる。学生たちが誰かの長所を見て自分の短所を伸ばすような配慮。
- **「読み書き能力」の洗練**

人文学を学ぶことで得られるのは「読み書き能力」であり、ただそれだけでしかない。文章を読み書く力は、メール、企画書、報告書など企業活動に必要な一般的な技能。

日本語を複眼的に洗練させるためには、英語プラス他の外国語の経験は有効。